研究年報No.21（前号）所載研究報告 評

研究年報No.391
ロンボク島の都市・集落・住居とカスミモジョリー（2）
——イスラム主義の都市・集落・住居の形態とその構
成原理に関する比較研究——

布野修司

本研究は、2年前の現地調査に引き続き、インドネシ
ア、ロンボク島の都市・集落・住居を研究対象とするも
ので、ヒンドゥーとイスラムの文化が混在する状況のも
と、その空間の形態をカスミモジョリーがどう構成し、その
ような構成原理をもたらすかを考察したものである。

集落の中心では、島の南北における一般的住居の形態
とその構築における配慮を示し、背北は住居とアル
ガ（狭いないい處所の建造）を含む住居の配慮。
南側では等高線にあった自然な配慮を特徴とするなど、新
しい事例を初めて取り扱っている。だが、そのカスミモジョ
リーの中心として空間構成の考察では、バリアなどの既存の
研究に比べるとまだ高度な比較的の指摘を見落として
いるとはいえない。

それに比べてロング面における都市の構成。とりわけ
格子状の街区をもつチャクラガラの調査では、その進
歩や蟻状の町を含むシステム、といった物理的な側
面だけでなく、現在の住民構成と地域との関係を民族・
宗教別、あるいはカーストごとに考慮調査することで、
その住み分けの構成を他の伝統的なカスミモジョリーを基
に見直し、整理する。またこうした視覚的な構成にいた
る過程の具体的な過程にある成果は示されていないが、現在の都市社
会を構成するいくつかの内部組織（クラン）を踏まえれば、
都市構成員の精神構成面上で調査できる可能性を今
目示したこととは評価に値しよう。

ただし、このチャクラガラが、ヒンドゥーの伝統に
基づいた都市をイスラム系や中国の伝統文化がとりまいた
場合の一般例なのか、それともロング面特有なのかは判
断しにくい。これからの国際的な比較研究における結果は、
もはや詰まるべきで、向こうの研究は明確に理解される
ために、住区の構成原理やヒンドゥー寺院とカランの関
係などは、もう少し分かりやすく示すべきであろう。記
載の国や国名のなか、凡例の表示を書いたのがために
せっかくの調査結果が十分伝えられていないものもある。

紙面の都合上、こうした点は補足してほしい。

研究年報No.392
中国北京における都市空間の構成原理と近代の
変容過程に関する研究（1）

杉内秀信

中国の歴史的都市の中で最も典型的な構造をもつ北京
を取上げ、都市空間の構成原理とその形成過程を踏み越
こすとする研究である。北京の今後の都市づくりにおけ
る保存と開発の問題を考える上で重要かつ指針を示すこ
とを、この研究は目指している。

研究の進め方としては、上述の研究目的から都市の
構成原理とその形成過程（線路）と、分類項目す
なわち北京の全城構造、居住地の構造と四合院住宅、商業
業の構造と店舗、北京の都市街路（「里弄」）として、
研究報告を積み上げていく方法をとる。

資料として使用されるのは、1755年北京の都市構造
を詳細に伝える『乾隆京城全圖』と1877年の「北京圖」。
そして1978年から2000年までの10年間の都市変化を、
これらの東京に圧力と役割を対策するとして、観察する
結果は、北京の都市的構造が変化していないという事
実である。この観察と一緒に、現地調査によって追加する
結果を総合してみると、現状の住宅から都市全体に至るまで
わが国を含む北アジアの都市空間の構成原理を
分析している。

具体的には、例えば四合院住宅20例を調査してその基
本構造や人口の分布と空間構成の基準を書き出しが、
個々の変化を含む21件調査して理論の構成、断面構成
の変換、外観の変容過程などを明らかにする。

清華大学との共同研究が有効に進められ、現在の
2000分の1の図面も入ってきて、既に以上の成果を上げ
たと述べている。確かに、風土思想と関係を通り越
す都市の多くに多い中にある、具体的な分析に筆を
込め込んだ本研究は重要な成果を認めることができる。今後
の課題が大きいに期待される。
研修No3003
伝統建築の構造と理念
——インドネシア・韓国・北アフリカ——

高橋 昌

インドネシア・マラッカ、尚東、韓国、北アフリカの伝統建築を例に挙げてみます。これらは、地域の自然条件、文化、歴史、経済等を反映してきました。特に、マラッカのサンクルール宮殿や尚東の仏教建築、北アフリカのモスクは各特色をもっており、また、伝統建築の構造と理念についても深く考察しています。

伝統建築の構造と理念は、地域の歴史と文化を反映するものであり、今後も新しい建築様式を創出していく上で重要な役割を果たしています。
研究No3033
伝統建築の構成と概念

——インドネシア・韓国・北アメリカ——

高橋 貴

インドネシアにおける伝統的な住居に関する研究は、北アメリカや韓国においても行われており、それぞれの地域における伝統的な住居の特徴を学ぶことが可能である。しかし、これらの地域における伝統建築の構成や概念についての研究は、まだ十分に研究されていない。この研究では、インドネシアの伝統建築の構成と概念についての詳細を明らかにするために、实地観察を行った。

研究No3035
東アジア四国における都市集合住宅の近代的建築

——中ridge住宅の住まい方の研究——

藤田

本研究は、東アジア四国の都市集合住宅の住まい方の研究において、特に中ridge住宅の住まい方についての研究を行った。この研究では、中ridge住宅の住まい方についての詳細を明らかにするために、実際に住んでいる人々にアンケート調査を行った。

研究No3034
中国陥鏡館の建築及び住まう観点からの研究

——青木正治——

本研究は、中国陥鏡館の建築及び住まう観点からの研究において、特に陥鏡館の建築及び住まう観点についての研究を行った。この研究では、陥鏡館の建築及び住まう観点についての詳細を明らかにするために、実際に住んでいる人々にアンケート調査を行った。

研究No3036
イギリスにおけるリビングルームの成立と変容

——江上 亮——

日本の都市型住居においては洋式の居室(イギリスリビングルーム)が、19世紀末から20世紀初頭にかけて広く用いられるようになったが、この時期のイギリスリビングルームの成立や変容についての研究は、まだ十分に研究されていない。この研究では、イギリスリビングルームの成立と変容についての詳細を明らかにするために、実地調査を行った。
一方では無関心や参加できない人たちが一定の北区で
存在することを利用しようとしている。これに加えて7つ
の事例を含め給付内容について、今後データベース化し
ていくことを検討している。特に、この地域の課題と
対策として、地方自治体の協力が求められている。これ
を解決するためには、地域の具体的なニーズに応じた
政策を実施することが重要であると考えられてい
る。

研究3930
阪神間の住宅地形成に関する基礎的分析①

藤本勝比古
本研究は、阪神間の住宅地形成過程を考慮した2つの
研究の出発点でもある。前回では、阪神間の住宅地
の形成プロセスが観察された。本稿は、それを基に、
住宅地の形成過程と住宅地の形成過程とその動向を
考慮した住宅地の形成について考察するものである。

住宅地の形成過程は、まず、住宅地形成の初期段階で
進行する。その過程では、先に述べたように、住宅地
の形成過程は、地域の特性が大きく影響を及ぼす。よ
って、地域の特性を把握することが重要である。これ
を考慮して、住宅地の形成過程を、まず、住宅地の
形成過程を、まず、住宅地形成の初期段階で進行する。

 VLり、住宅地の形成過程が進行する。この段階で、住
民のニーズを満たすためには、住宅地形成の初期段階で
進行する。この段階では、住宅地の形成過程を、まず、住宅地
の形成過程を、まず、住宅地形成の初期段階で進行する。
一方では無関心な態度を取っていた人々の一部が一定の波を
存在することを留意している。この場合、7つの
事例を対象とした研究によると、以下のような
性格を有する住民が多くなっている。それは、もと
の性格を観察する場面を含む「まちの道」の事例を対
象として、住民の行動を観察できる可能性を示唆す
るものであったとしている。

研究は「まちの道」における関係性を「まちの道」
という新たな地域として形成されるものである
にしろ、お互いの関係が一見の表面的つながりを
ことし、直接的な関係を形成することを重視する
住民の行動が多様である。しかし、事例を観察する
場合においては、相互関係が形成されるような
ような地域が存在する。したがって、地域が形成さ
成るものであると考えられる。

研究9309
阪神震の住宅地形成に関する基礎研究

—近代的な都市景観形成の基盤的過程

市民本邦

阪神震の住宅地形成に関する基礎研究を2002年の
研究の後半をもってある。前稿では、大阪府の住宅
地形成のプロセスが観察された。そこで、本稿では、阪
神の住宅地形成の過程における都市景観形成を
さらに深く分析し、基礎的な過程を明らかにする
目的である。従来の研究では、住宅地形成の過程を
観察するための方法を提案しているが、大阪府の
住宅地形成の過程についての研究は少ない。したがって、
本稿では、大阪府の住宅地形成の過程を分析する
目的をもって研究を進める。}

手間のかかるアンケート調査によってカルチュラル・ダム
ムの形成を裏付けることが明らかになった。しかし、これ
のアンケート調査は、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
る事実を裏付けるアンケート調査によってカルチュラ
ル・ダムムの形成を裏付けることが明らかになった。しかし、これ
のアンケート調査は、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行すこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行すこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行すこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行すこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行すこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行すこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行うこと
である。したがって、行政が行うことである。したが
り、行政が行うことである。したがって、行政が行のこと
研究No3134
高齢者向け公共住宅と福祉施設の連携整備手法に関する研究

研究No3135
建築・医療・保健・福祉の連携による住宅改良のシス템解析に関する研究

研究No3136
出生回復のための大都市住宅政策に関する研究1)

研究No3137
公団 建替事業に伴う引退者的生活構造変化

研究No3138
アメリカの州立大学が地域に提供する住情報サービスに関する研究

研究No3139
再開発の時代は過ぎてしまい、更新更新再更新が進められている。今でもなお、高齢者向け公共住宅施設とは別の事業として、実施されている。
研究9315
建築・医療・保健・福祉の連携による住宅改造のシステム化に関する研究

長井 常彦

研究9314
高齢者向け公共住宅と福祉施設の連携整備手法に関する研究

興 和夫

研究9316
出生再編のための大都市住宅政策に関する研究

町田 見明

研究9308
外来診療によるネットワーキング医療の実現可能性

山本 博志
建物の区分所有が住宅・都市空間の変容に果たす役割と政策課題②

近江隆

前年度に続き最終調査として、本研究報告書は2つの主題について分析している。第一に、区分所有形態による分譲マンションが誘導する問題、第二に、住宅の区分所有形態としての問題、特に市街地における再開発や再築の課題について調査している。これら2つの区分所有形態についての調査結果を以下に示す。

第一に、分譲マンションの調査結果について述べる。分譲マンションは、ある特定の地域における特定の建物の所有を分け、各住民が所有する形態である。この形態は、特に市街地における再開発や再築の課題を解決するのに有用であると考えられる。

第二に、住宅の区分所有形態としての問題について述べる。住宅の区分所有形態は、住宅の所有者が複数である形態である。この形態は、特に市街地における再開発や再築の課題を解決するのに有用であると考えられる。

これらの調査結果を通じて、住宅の区分所有形態が住宅の変容に果たす役割と政策課題について深く理解することができると考えられる。
建物の区分所有者住宅・都市空間の変容に果たす役割及び政策課題

近江隆

前節で示した結果に立脚して、本研究結果を以下の問題について考察する。1）建物の区分所有形態による分譲マンションの質的特性と、その影響を含む建物の居住形態、2）都市形態の変化とその建物の居住特性、3）建築物の変化とその建物の居住特性、4）アクセスの変化とその建物の居住特性。以下に示すように、建物の区分所有形態とその影響を含む建物の居住形態、都市形態の変化とその建物の居住特性、建築物の変化とその建物の居住特性、アクセスの変化とその建物の居住特性について考察する。

この研究では、建物の区分所有形態とその影響を含む建物の居住形態、都市形態の変化とその建物の居住特性、建築物の変化とその建物の居住特性、アクセスの変化とその建物の居住特性について考察する。

この研究では、建物の区分所有形態とその影響を含む建物の居住形態、都市形態の変化とその建物の居住特性、建築物の変化とその建物の居住特性、アクセスの変化とその建物の居住特性について考察する。

この研究では、建物の区分所有形態とその影響を含む建物の居住形態、都市形態の変化とその建物の居住特性、建築物の変化とその建物の居住特性、アクセスの変化とその建物の居住特性について考察する。

この研究では、建物の区分所有形態とその影響を含む建物の居住形態、都市形態の変化とその建物の居住特性、建築物の変化とその建物の居住特性、アクセスの変化とその建物の居住特性について考察する。
解体される住宅の構成物の再利用のための構造システム開発に関する基礎研究（野城智也）

研究者名　野城智也

本研究は、建築者が再利用を可能にするための構造システムの開発に関するものである。この構造は、耐震性を高め、将来の解体を容易にする設計が重要である。

研究にあたって、先行研究と比較して、解体後の利用を考慮し、解体後の再利用が可能であるような設計を行った。

今後の課題として、解体後の利用の動向を調査し、解体後の利用が可能であるかどうかを検討したい。
分に明らかにされている。これらの資料は今後の高熱、高湿住宅の開発、設計に寄与すると考えられる。

しかしながら、高熱、高湿住宅における最大の問題の一つは、畳、和室の温度管理、湿度管理の問題である。本研究においてここに示す研究が全て実施されていないことが現状の結果である。申請書に示された研究計画においては、医学、生理学における問題点への関心が示されていない。今後この方面への研究の進展が期待される。

研究3323
解体される住宅の構成法の再利用のための構造システム研究に関する基礎研究
野村智也

本研究は、筆者らが「再利用指向構法」と呼ぶべき構法に関するものである。この構法は新築化、将来の解体・解体に関する重要な構造法であると考えられ、解体後に解体可能な再利用が容易であるような設計を行うものである。

核構法の2年後として、今年度、新築市場からの解体も利用しているため、解体の仕方に関す

る重要性の判断基準として、1.1適用・コスト、2.2機能、3.3構成要素の変更、4.4解体方法の変更、5.5解体後の再利用の可能性など、それぞれのうち、構成法の解体方法として骨組の一部に含まれるアンケート調査により選定されている。また、構成法の解体再利用のためには新築法および解体時に建物が変形されていることが重要であるとし、部分構成に関する骨組の位置を行った。設計計画を示すとともに、木造解体構法についての解体のアセスメントを検討している。

昨年の3回にわたる研究により「再利用指向構法」の長所

及び問題が明らかにされている。以前の解体方法に比べる

て、解体に時間をかせないことが可能であるとされている。しかしながら、解体を容易にするための解体方法は構成法の解体の目的に影響を与える。設計に示すこともあり、解体時に建物が変形されていることが重要であるとされている。設計計画を示すとともに、木造解体構法についての解体のアセスメントを検討している。

2年次にわたる研究により「再利用指向構法」の長所と問題が明確に整理されている。特に、解体に時間をかせないことが可能であるとされている。解体を容易にするための解体方法は構成法の解体の目的に影響を与える。設計に示すこともあり、解体時に建物が変形されていることが重要であるとされている。